松野クラ、さんはドイツの方で、農商務省にお勤めの松野磵氏の夫人でございます。明治九年十一月女子師範學校に幼稚園を開設致しました時、聘せられて主任保姆となり最も困難な時代に保育事業にあたられました。當時にあつて女史がフレーベル直傳の保育法を以て幼稚園創設期に於て我が國保育の根柢を作られた貢獻は、遠く年を經ると共に愈〻そのありがたさを、しみ〴〵と感じられるのでございます。幼兒にとつて最も御緣の深い小波先生が、幼いころこの方に外國語をお學びになつたときゝ、特にお願ひしてかいていたゞいたものをみなさまにもお目にかけたく左に掲げます。

松野クラ、夫人の思出

松野夫人クラ、女史は、初めて日本へキンダア、ガアテンを輸入した人だと云ふ事ですが、私はまた他の事で、初めて獨逸語を教はつた先生です。

それは丁度私の、八九歳の頃でした。

松野家は麴町下二番町の坂の途中、後に廣田大使の住んで居られた、彼所にあつたのでした。時は明治十年頃の事です。

其時私は、同じ麹町の平河町に住んで居ましたが、父の友人に長松幹こ云ふ人があり、（現男爵篤棐氏の先代）松野磵氏は其弟にあたる人で、永く獨逸で林學を研究し、その奥さんが獨逸人だこ云ふので、即ち私が其家へ行つて、獨逸語を習ふ事になつたのですが、何しろ一方にはまだ小學校に通つて居る、腕白盛りの私ですから、直接外人について語學を習ふなぞは、分に過ぎた事なのですから、親の云ひつけで一週間に二三度宛その許へこ通ふ樣なものゝ、何を何うして教はつたのやらまるで無我夢中です。

唯今だに覺えて居るのは、丁度冬の事で、室内にはさかんにストーブが燃えて居ました。子供だからたまりません。忽ちその溫度にのぼせて嘔氣を催うして泣き出しました。

クラ、先生はビツクリして、私を抱いて室から連れ出し、急いで人車をよんで、宅まで送つてくれました。

その他に覺えて居るのは、いつも稽古が夕方なのです。するこもう臺所の方では、ビフテキフライの香氣がしはじめるのです。此方で折角アベツエをならつても、鼻がヒコ〳〵、咽喉がグウ〴〵、一向稽古が身につかなかつた事です。

尤もあの高い鼻、一寸こわい樣な眼つきだけは、今でも眼に殘つて居ます。そのくせ至つてやさしい、親切な婦人でした。

あの頃私が、いつそ今三四年幼さかつたら、それこそキンダアガアテンに入つて、ほんこに可愛がつてもらへましたらうにこ、今更惜い樣な氣がします。